

2016 年度
事業計画書

2016 年 1 月 1 日から
2016 年 12 月 31 日まで

公益財団法人 世界こども財団

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 方針

被災地である福島県相馬市・南相馬市の子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリング、スポーツ交流、県外体験学習及び健康相談会を他の支援者とともに協働して実施する。

2 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- ・前年度までに引続き、被災地（福島県相馬市・南相馬市・新地町）から小中高校の児童・生徒、教員及び保護者等を対象とした PTSD（心的外傷後ストレス障害）予防のためのカウンセリングについて要請がきている。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フォロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所及び学校法人国際学園）とともに協働して支援を行う。
- ・世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネート及び支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。

・カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
PTSD 予防のためのカウンセリング	福島県相馬市	小中学校の児童・生徒・教員・保護者	後日決定
	福島県南相馬市	小中学校の児童・生徒・教員・保護者	後日決定
	福島県相馬郡新地町	高校の生徒・保護者	後日決定
備考	・【支援者（機関）】 相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フォロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所、学校法人国際学園 【実績】 ・2011 年度より継続実施		

(2) 健康相談

- ・福島県相馬市は東日本大震災で直接被害を受けるとともに、原発事故による放射線物質の飛散が心配され、震災後、約 5 年を経過するも住民の方々は健康への影響について大きな不安を抱き続けているのが現実である。一方、仮設住宅居住者も減少しているが、仮設居住者の健康診断を継続的に行っておくことは将来的にも大きな意味のあることである。上記観点より、被災地住民の原発事故による健康不安への対処および仮設居住者の健康状態の継続的チェックを狙いとした健康診断をするよう要請がなされた。

本支援は世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（相馬市保健センター、東京大学医科学研究所及びそのネットワークの医師団並びに学校法人国際学園）とともに協働して支援を行う。

- ・世界こども財団は、本健康診断に関する支援対象者について保健センターとの調整、健康診断の実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等の支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。

・健康診断の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
健康相談（健康不安への対応）	福島県相馬市	住民（周辺地区の仮設住民含む）	2016年7月頃
備考	<p>・【協働者（機関）】 相馬市保健センター、東京大学医科学研究所及びそのネットワークの医師団、学校法人国際学園</p> <p>【実績】</p> <p>・2011年度より継続実施</p>		

(3) スポーツ交流

- 被災地である福島県相馬市より、子どもたちを元気にするため、前年度に引続き子どもサッカースクール及びサッカー指導講習会の開催についての要請がきている。
本開催要請は、世界子ども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施する。
- 世界子ども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。

・スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程等
<ul style="list-style-type: none"> 子どもサッカースクール サッカー指導講習会 	福島県相馬市	<ul style="list-style-type: none"> ■小中学校の児童・生徒 ■青年等 	2016年1月頃
	福島県相馬市	同上	2016年8月頃 ※児童・生徒を星湘南大磯キャンパス（神奈川県）へ招待
	福島県相馬市	同上	2016年10月頃
備考	<p>・【協働者（機関）】 神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア（東京大学、横浜国立大学、神奈川大学など）、学校法人国際学園</p> <p>【実績】</p> <p>・2016年度より継続実施</p>		

(4) 県外体験学習

- 被災地である福島県相馬市より、前年度に引き続き、子どもたちを元気にするための県外体験学習の要請がきている。本体験学習は、放射線への不安から屋外における体育実習や野外体験学習を十分に行えない子どもたちを、大自然の宝庫である北海道に招待し、のびのびと野外体験学習を行ってもらおうとともに、それを通じて友だち、仲間への配慮、共同作業・規律の大切さを学んでもらうことを目的としている。これまでに実施した体験学習では、これら目的が十分達成できたと評価を

いただいている。については本体験学習の継続が望まれているので、2016年度においても引続き本体験学習（北海道に夏・冬1週間程度招待し夏は主に自然観察、冬はスキーと年2回の県外体験学習）を他の支援者（北海道芦別市、北海道帯広市、学校法人国際学園）とともに協働して実施する。

- ・相馬市は参加者を広く募集し、世界こども財団は、本県外体験学習に関する参加者についての相馬市との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）及び一部経費負担等の支援活動を行う。

・県外体験学習の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
体験学習	福島県相馬市	小中学校の児童・生徒	2016年8月頃 ※自然観察、ものづくり体験
	福島県相馬市	小中学校の児童・生徒	2016年12月頃 ※スキー体験、雪上体験
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【協働者（機関）】 北海道芦別市、北海道帯広市、学校法人国際学園 ・【実績】 ・2012年度より継続実施 		

II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 方針

開発途上国であるエリトリア、ミャンマー、ブータンに対し、保健衛生及び医療環境向上のための支援活動を他の支援者とともに協働して実施する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア：保健衛生・医療環境改善のための協力

- ・エリトリアは財政的制約もあり保健衛生・医療環境分野において改善すべき点が多々ある。前回までのミーティングの結果、国立オロッタ医科歯科大学（エリトリア唯一の医療大学）にて現状の課題を洗い出しており、そのフィードバックが2016年の第1四半期には提出される予定である。その時点で、国内協働者と連携を取り、プライオリティ付けとフィージビリティ・スタディーを行っていきます。具体的には、オロッタ医科歯科大学担当者を招聘し、日本側協働者とのミーティングを行うとともに、日本の保健衛生・医療環境について学ぶ機会を設ける。必要があれば、日本側からもエリトリアを視察し、現状分析、理解を深める。その上でアクションプランの作成を行い、順次実施して行く。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
保健衛生・医療環境改善点の洗い出し、及びプライオリティ付けとフィージビリティ・スタディー	エリトリア国立オロッタ医科歯科大学	保健医療従事者（医師等）	2016年5月頃
備考	・【協働者（機関）】 東京大学医科学研究所・学校法人国際学園他		

(2) ミャンマー：無線中継局を設置し、救急車との無線交信範囲拡大

- 先にミャンマー政府保健省に対し救急車2台を寄贈している。その目的は、巡回医療及び患者の緊急搬送のための体制を整備・充実するためであった。2015年、現地で発生した水害でも、被災地にてこの救急車が大きな活躍をしたと報告を受けている。当該救急車には無線装置を装備しているため、通信用の中継局（中継タワー）をネピドーに整備することにより、基地局（病院・保健所等）との交信範囲が大幅に広がり、救急車の活動範囲が拡大するとともに、緊急対応性が格段に向上される。中継局設置を予定しているマウント・プレザント・ホテルからは既に了解を得ており、当該タワーも既にヤンゴンに到着している。現在は、ミャンマー政府の正式許可が下りるのを待っている状態である（選挙があり時間を要している状況である）。

・無線中継局設置寄贈の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
無線中継局の建設・設置	ミャンマー（保健省）	ネピドー周辺の医療僻地	2016年（新政権樹立の関係で詳細は未定）
備考	・【協働者（機関）】 一般社団法人ミャンマー協会、株式会社ファム、学校法人国際学園		

(3) ブータン：医科大学プロジェクト支援

- ブータンでは医療関係者の教育・育成が大きな課題となっている。現在は主に海外、特にインドへ留学させる形で教育・育成が行われているが、それを国内にて行えるようにするため自前の医科大学を設立するプロジェクトを進めている。日本政府からの ODA が必要なプロジェクトであるが、ブータンの実情に合った教育プログラムの設計等で協働を求められている。但し、本プロジェクトの実施時期については、ブータン政府が ODA を申請するタイミング、日本政府がそれを認可するタイミング等、不確定な要素が未だある状況である。

・医科大学プロジェクトの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
医療教育カリキュラム作成	ブータン (保健省・教育省)	ブータン医療関係学生	2016年 (ODA の関係で詳細は未定)
備考	・【協働者 (機関)】 医療法人社団 KNI 北原国際病院、学校法人国際学園		

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリアとの国際相互理解を図るため、同国より若手陸上選手の短期留学および陸上に才能のある高校生の留学受入れを他の支援者とともに協働して実施する。また、エリトリアの「東京オリンピック・パラリンピック大会に関する事前キャンプ協定書」の成功を図るため、2016 リオデジャネイロ・オリンピック大会での同国事前キャンプ支援を実施する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア若手陸上選手の短期留学受入れ

- ・日本陸上競技連盟が主催する長距離選手合宿に、エリトリア若手陸上選手3名およびコーチを参加させ、日本の科学的トレーニングを体験させ、更なる才能の開花を促す。一方、日本選手には優れた潜在能力を有するエリトリア選手との合宿が世界へ挑戦する刺激となることが期待される。これにより、両国陸連同士の交流が進み、相互にレベルアップすることが期待される。

・短期留学生受入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
エリトリア若手陸上選手の合宿受入れ	エリトリア陸連	エリトリア若手陸上選手3名およびコーチ1名	2016年3月
備考	・【協働者 (機関)】 日本陸上競技連盟、学校法人国際学園		

(2) エリトリア留学生 (高校生) の受入れ

- ・エリトリアより、陸上に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばすとともに、日本の高等教育を受けさせることにより、将来、エリトリアの発展そして日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人学生は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることを期待できる。

・留学受入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	エリトリア（教育省・陸連）	エリトリアの高校生2名程度	2016年9月頃より
備考	・【受入れ校】 学校法人国際学園 ・【協働者（機関）】 星槎学園、学校法人国際学園、日本陸上競技連盟		

(3) エリトリア、リオデジャネイロ・オリンピック大会事前キャンプ支援

- ・エリトリア・オリンピック委員会、神奈川県、小田原市、箱根町、星槎グループが締結した東京大会事前キャンプに関する協定書の実を上げるため、2016年のリオデジャネイロ・オリンピック大会でもできる限りの協力をしたい旨、日本側関係者およびエリトリア側より要請がされている。については適切なキャンプ地の選定等で協働する。

・留学受入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
リオデジャネイロ・オリンピック大会事前キャンプ支援	エリトリア・オリンピック委員会	エリトリア選手団	2016年8月頃
備考	・【協働者（機関）】 学校法人国際学園、日本陸上競技連盟		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児、障害児の自立を支援するため、他の支援者ととともに支援活動を実施する。

2 支援事業の概要

(1) ミャンマー国内（ネピドー近郊）孤児院に対し支援活動を実施し、孤児たちが将来自立できるようにする。

- ・金銭、食料等を提供することは、孤児たちが生死の窮状にある時には大切なことであり、必要不可欠なことであるが、長期的には孤児院経営を安定、自立させることが重要である。そのための支援として、当該孤児院の現状把握をおこない、孤児院自立に向けて孤児院を運営・経営できる人材の育成を支援する。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児院の分析 および運営・経 営候補者の研 修	ミャンマー国内孤児院	ミャンマー孤児院の子どもたち	—
備考	・【協働者（機関）】 ミャンマー保健省、学校法人国際学園		

(2) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院に支援事業を実施し、孤児たちが将来自立できるようにする。

- ・矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めて来たが、2016年早々には正式に開所式を開催できる段階となっている。については、職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供を積極的に進め、孤児及び孤児院自立に向けてた支援を継続して行く。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児縫製職業 訓練	アグラサーラ孤児院	孤児院の子どもたち	—
備考	・【協働者（機関）】 （株）矢部プロカッティング、学校法人国際学園		

(3) アジア地域で、知的発達障害のある子どもとその家族を教育・医療・福祉の面で支援する団体を顕彰し、その活動を激励する。

- ・知的障害のある児童の教育に尽力し、成果を上げている個人、団体を顕彰することにより、当該活動を支援するとともに、社会的認知を進め、環境改善につなげて行く取組みである。

・支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
Star Raft Award (10万 円) の提供	アジアの発展途上国	教育医療関係者	AFID 総会時顕彰
備考	・【協働者（機関）】 AFID (Asian Federation on Intellectual Disabilities)、学校法人国際学園		